

リュープロレリンで 子宮内膜症、子宮筋腫の治療を 受けられる患者さんへ

監修/
和泉市立総合医療センター
特別顧問 婦人科
前和歌山県立医科大学
産科・婦人科学 教授
梅咲 直彦 先生



目次

はじめに	1
女性ホルモンと女性特有の臓器	2
女性における女性ホルモンのはたらき	2
子宮、卵巣と周辺器官のしくみ	3
子宮内膜症について	4
「子宮内膜症」って、どんな病気？	4
子宮筋腫について	5
「子宮筋腫」って、どんな病気？	5
子宮内膜症	6
「子宮内膜症」の治療法	6
「子宮内膜症」に対するリュープロレリン療法	7
子宮筋腫	8
「子宮筋腫」の治療法	8
「子宮筋腫」に対するリュープロレリン療法	9
リュープロレリンについて	10
「リュープロレリン」投与を開始する前に注意することはありますか？	10
どのような副作用がありますか？	11
「リュープロレリン」の投与方法とスケジュールを教えてください	12
治療記録・治療予定日	13

はじめに

女性の方にとって、「子宮内膜症」と「子宮筋腫」は、よく聞く病気の名前ですが、病気の原因や治療について正しく理解できている方は多くはないかもしれません。

女性ホルモンは、月経周期を調節し、妊娠や出産、女性らしさにかかわる大切なホルモンで、主なものにエストロゲン(卵胞ホルモン)とプロゲステロン(黄体ホルモン)があります。エストロゲンは女性のからだを調整するはたらきを持つ一方で、女性特有の病気である子宮内膜症や子宮筋腫などを引き起こす原因となるとともに、さらに病気を進行させることがあります。そのため、これらの病気の患者さんでは、エストロゲンのはたらきを抑えることが治療につながります。

エストロゲンのはたらきを抑える方法としては、エストロゲンを作る臓器である卵巣を手術で取ってしまうという方法もありますが、このようなからだを傷つける方法ではなくお薬によりエストロゲンを作るはたらきを抑えることもできます。「リュープロレリン」というお薬は、性腺刺激ホルモン(ゴナドトロピン)放出ホルモン(GnRH)アゴニスト製剤でエストロゲンを作るはたらきを抑えることで、子宮内膜症や子宮筋腫を改善します。この冊子では、子宮内膜症や子宮筋腫の患者さんに、これらの病気と女性ホルモンの関係について正しく理解していただくとともに、適切な治療を続けていただくために、「リュープロレリン」の投与方法やスケジュール、また、副作用や日常生活で心掛けることなどを、やさしくまとめています。

この冊子を読まれる患者さんが、適切な治療を受け、これらの病気の悩みや苦しみから、少しでも早く解放され、快適な毎日を過ごしていただけるよう願っています。

和泉市立総合医療センター 特別顧問 婦人科
前和歌山県立医科大学 産科・婦人科学 教授
梅咲 直彦

女性ホルモンと女性特有の臓器

女性における女性ホルモンのはたらき

- 女性ホルモンには、主にエストロゲン(卵胞ホルモン)とプロゲステロン(黄体ホルモン)の2種類があり、どちらも卵巣で作られます。
- 女性ホルモンは、初潮を迎える11~12歳頃から50歳前後の閉経頃まで作られますが、閉経後は急激に女性ホルモン量が低下します。
- エストロゲンとプロゲステロンの作られる量は、月経周期(月経期、卵胞期、排卵期、黄体期)により大きく変化します。これらのホルモンは妊娠の成立に必須となり、また、女性のからだを維持するために重要なはたらきをします。
- 女性ホルモンは、コラーゲンの生成を助け、肌や髪の毛、爪などのハリや潤いを保つはたらきもあります。また、骨を強くして骨折を防いだり、コレステロールを調節して動脈硬化を防いだりします。

月経周期



子宮、卵巣と周辺器官のしくみ

子宮

西洋ナシのような形をしていて、胎児を育てる場所です。通常は鶏の卵ぐらいの大きさです。内側から順に、子宮内膜、子宮筋層、漿膜しょうまくの3層からなっています。

卵巣

子宮の左右に一つずつあり、通常は直径約2~3cmの大きさです。女性ホルモンはここで作られます。また卵巣にある卵胞と呼ばれる組織では、通常毎月1個ずつ卵子が作られ、排出(排卵)されています。

卵管

子宮と卵巣の橋渡しをする長さ約8~10cmの細い管です。ここで卵巣から出てきた卵子と精子が出会い、受精します。

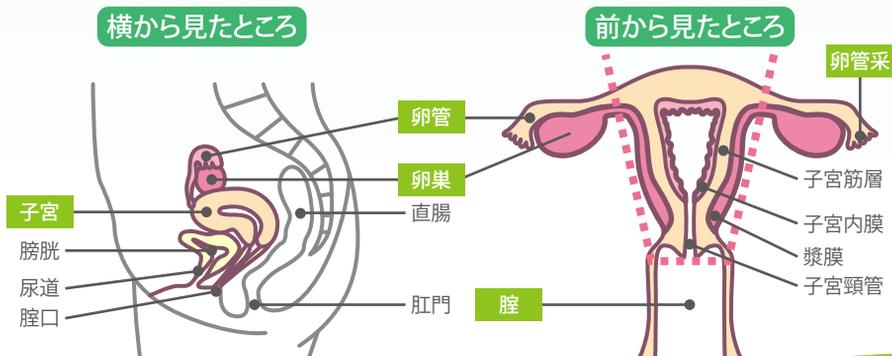
卵管采

卵管の先端にあり、イソギンチャクのような形をしています。ひらひらと繊細な動きをして、卵巣から排出された卵子をピックアップして卵管に送ります。

ちつ腔

子宮から腔口までの管で、出産の際の胎児の通り道ですが、普段は月経血などの排出管として機能しています。

子宮、卵巣と周辺の器官



子宮内膜症について

「子宮内膜症」って、どんな病気？

子宮内膜症は、子宮内膜と同じ組織が何らかの原因で子宮内以外の場所のできる病気です。この子宮内膜症組織は、女性ホルモンのはたらきを受けて増殖、出血を繰り返し、その結果周辺組織と癒着を起こします。

●子宮内膜症がしやすい場所

最もしやすい場所は卵巣ですが、子宮と直腸の間、子宮を後ろで支えている靭帯、子宮と膀胱の間などにもできます。まれに、肺や腸のうぼうにできることもあります。卵巣にできた場合にはチョコレート嚢胞となります。

●子宮内膜症の主な症状

月経痛

子宮内膜症を持つ多くの女性を悩ませる症状です。鎮痛剤が無効で救急車を呼ぶこともあるほどです。

月経以外の疼痛

月経以外の時期にも腰痛、排便痛、性交痛などを引き起こします。

不妊

子宮内膜症を持つ女性の約30%が不妊を訴えています。癒着などによる原因が考えられますが、癒着などのない軽症の患者さんにも起こることから因果関係は不明です。

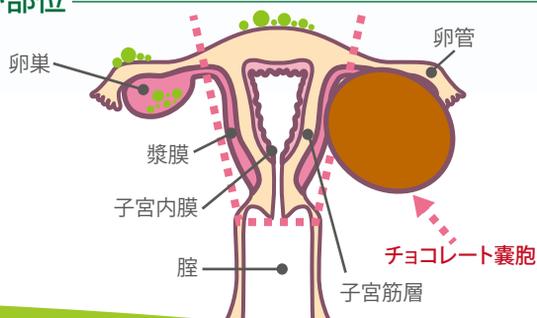
その他

過多月経や不正出血、腹痛・下血・便秘・下痢のような消化器症状、頻尿や血尿のような尿路症状などがあります。

子宮内膜症がしやすい部位

前から見た図

● 子宮内膜症



子宮筋腫について

「子宮筋腫」って、どんな病気？

子宮筋腫は、子宮内や周囲にできた小さなかたまり(筋腫)が、女性ホルモンのはたらきを受けて大きく成長してしまう病気です。そのままにしておくと10kgを超える大きさにまでなることがあります。良性の腫瘍ですので、病気自体が生命にかかわることはありません。

●子宮筋腫ができやすい場所と主な症状

子宮筋腫は、多くの場合、1個ではなく複数個でき、大きさもさまざまです。子宮内や周囲のいろいろな場所にできますが、できた場所によって、症状に違いがみられます。

子宮の内側 (粘膜下筋腫)

子宮の内側の粘膜と呼ばれる薄い膜の下にできる筋腫です。小さくても過多月経や不正出血などの症状が強くあらわれることがあり、また、不妊の原因になることもあります。

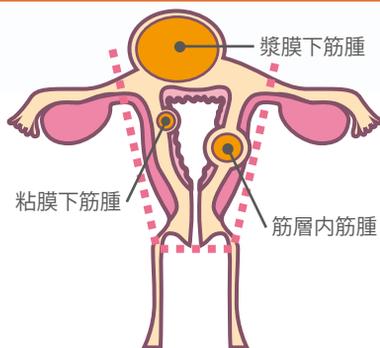
子宮の 筋肉の中 (筋層内筋腫)

子宮の筋肉の中にできる筋腫は、小さいものでは症状がないことも多いのですが、大きくなると過多月経や不正出血などがあられ、貧血をはじめ流産や早産の原因になることもあります。

子宮の外側 (漿膜下筋腫)

子宮の外側の漿膜と呼ばれる薄い膜の下にできる筋腫で、通常は、かなり大きくなるまで症状はあわれられません。

子宮筋腫ができやすい場所



前から見た図

●子宮筋腫

子宮内膜症

「子宮内膜症」の治療法

子宮内膜症の治療法は大きく、手術療法と薬物療法に分けられます。どちらを行うかは、医師と相談して決めていただきたいのですが、超音波検査で卵巣チョコレート嚢胞が見つかった場合は、破裂・感染・悪性化予防の観点から、早めの手術が必要です。

●手術療法について

- 腹腔鏡下手術と開腹手術がありますが、妊娠を希望される場合には、腹腔鏡下手術が勧められます。
- 腹腔鏡下手術は開腹手術に比べて傷も小さく、術後の癒着もなく、入院期間も数日から1週間程度です。
- 根治手術では、子宮と両側の卵巣を取り除きます。根治手術を行うと、妊娠することはできません。

●薬物療法について

薬物療法は大きく、**対症療法**と**内分泌療法**に分けられます。

対症療法

子宮内膜症の進行を抑えるわけではありませんが、子宮内膜症による痛みなどの症状を和らげるために鎮痛薬や漢方薬が用いられます。

内分泌療法

ホルモンののはたらきを調整するお薬を使用して、子宮内膜症の進行を抑えます。

- ①**低用量ピル**…卵胞ホルモンと黄体ホルモンの合剤で排卵を抑えるとともに、含まれる黄体ホルモンが子宮内膜を萎縮に導き治療効果を発揮します。比較的軽症の子宮内膜症に選択されます。まれですが重篤な血栓症が起こることが問題となっています。
- ②**ジエノゲスト**…黄体ホルモン製剤で、子宮内膜の萎縮をきたすことで治療効果を発揮します。比較的長期に使用可能ですが、不正性器出血が続くことがあります。
- ③**ダナゾール**…男性ホルモンに似たお薬で、閉経に近い状態を作り出し治療します。にきびや体重増加などの副作用が女性には嫌われ、現在ではあまり使用されていません。
- ④**GnRHアゴニスト(リュープロレリン等)**…エストロゲンが作られる量を減らし、閉経に近い状態を作り出し治療します。効果は高いのですが、6ヵ月以上の連続投与はできず、また更年期様の症状が出る場合があります。

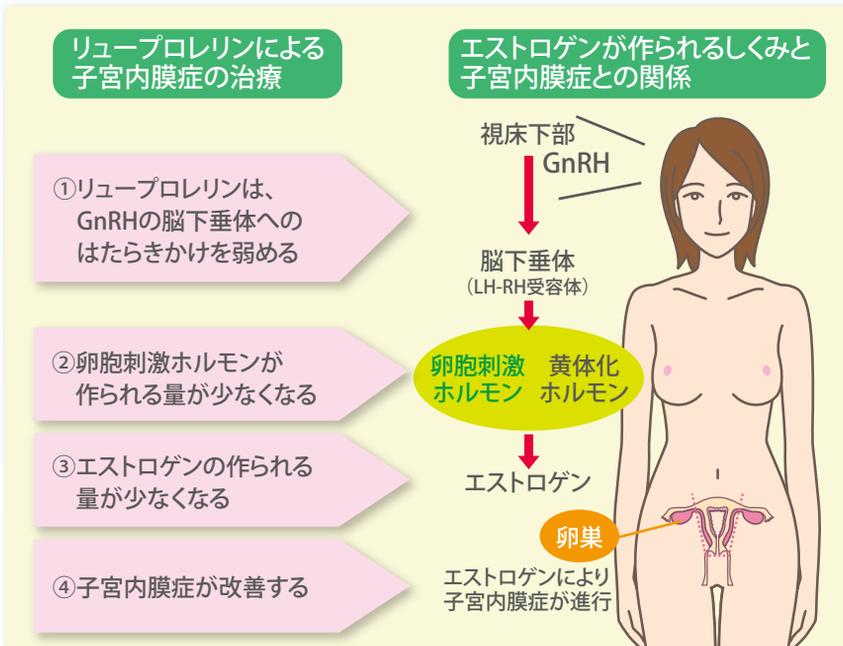
「子宮内膜症」に対するリュープロレリン療法

●エストロゲンによる子宮内膜症の進行

エストロゲンは、女性のからだの中でいくつかの段階を経て作られます。まず最初に、脳の視床下部と呼ばれる部位で性腺刺激ホルモン放出ホルモン(GnRH)というホルモンが作られ、次にそのホルモンが脳下垂体にはたらきかけます。すると脳下垂体で卵胞刺激ホルモンが作られて卵巣にはたらきかけ、エストロゲンが作られます。そして、このエストロゲンにより子宮内膜症が進行します。

●リュープロレリンによる子宮内膜症の治療

リュープロレリンは、継続投与することでGnRHの産生が抑えられ、その結果、脳下垂体にはたらきかける力を弱めます。そして、卵巣刺激ホルモンが作られる量が少なくなり、最終的にエストロゲンが作られる量が減少して、子宮内膜症の改善につながります。



子宮筋腫

「子宮筋腫」の治療法

子宮筋腫が見つかったとしても、特に症状がなければ、通常、治療は行いません。ただし、定期的な検診は必要となり、筋腫が急に大きくなっている場合や、過多月経による貧血や月経痛など日常生活に支障がある症状があらわれた場合には、治療を検討します。

治療を行う場合には、**手術療法**と**薬物療法**があります。

●手術療法について

- 子宮を取ってしまう(子宮全摘術)手術と筋腫だけを取り除く手術(筋腫核出術)があります。
- 開腹手術を行わなくても、腔式手術や腹腔鏡下手術で筋腫を摘出できることがあります。
- 粘膜下筋腫は、小さくても過多月経や不正出血などの症状が強くあらわれることがあります。子宮の内側にあるため、お腹を切らず、腔からの手術(子宮鏡下手術)で摘出できることがあります。

●薬物療法について

薬物療法は大きく、**対症療法**と**内分泌療法**に分けられます。

対症療法

子宮筋腫の進行を抑えるわけではありませんが、筋腫による痛みなどの症状を鎮痛薬や漢方薬などで和らげます。

内分泌療法

ホルモンのはたらきを調整するお薬を使用して、子宮筋腫の進行を抑えます。リュープロレリン療法は、偽閉経療法とも呼ばれ、子宮筋腫の原因となるエストロゲンが作られる量を減らし、閉経に近い状態を作り出し、子宮筋腫を治療します。

エストロゲンが作られる詳しいしくみと、リュープロレリンがエストロゲンを減らすしくみについては、7ページをご確認ください。

「子宮筋腫」に対するリュープロレリン療法

リュープロレリンによる治療を行うことにより、筋腫を小さくするとともに貧血を改善することができます。また、筋腫への血流量を減らして手術をしやすくするなどの利点があります。

●手術前の場合

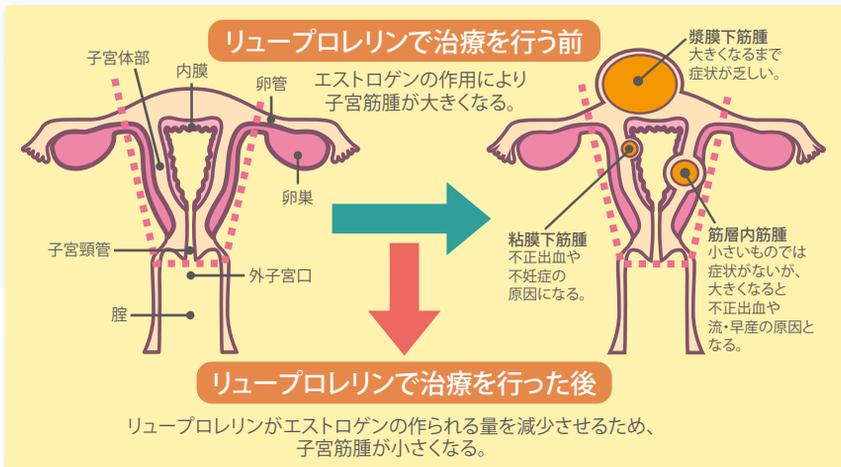
筋腫のみを取り除く手術を行う前に、リュープロレリンにより、大きな筋腫を小さくして筋腫への血流を減らして、手術時の出血量を減らすことができます。

●貧血が強く筋腫が大きい場合

過多月経や不正出血などで貧血の強い場合には、リュープロレリンにより、大きな筋腫を小さくして症状を改善して、手術をしやすくなります。腔式手術や腹腔鏡下手術が可能となり、開腹手術を避けることも期待されます。

●閉経が近い場合

閉経が近い場合には、子宮筋腫が大きくなったり症状が強くなったりするのをリュープロレリンにより抑えながら、手術をしないで閉経を待つこともできます。



リュープロレリンについて

Q 「リュープロレリン」投与を開始する前に注意することはありますか？

A1 妊娠または妊娠している可能性のある方、授乳中の方には投与できません。

リュープロレリンによる治療中は必ず避妊するようにしましょう。なお、避妊する場合は、ピルなどのホルモン剤はリュープロレリンのはたらきに影響する可能性がありますので、他の方法で行いましょう。

A2 将来的に妊娠を希望されている方は、事前に医師とよく相談しましょう。

リュープロレリンによる治療は比較的長期にわたって行われるため、将来、妊娠を希望されている方は、あらかじめ医師にその旨を伝えておきましょう。妊娠のタイミングについては医師とよく相談して決めることが大切です。

A3 治療中は生理が止まりますが、治療が終了すると、ほとんどの方は再開します。

リュープロレリンによる治療中は、月経周期を調節するエストロゲンが低下するため生理は止まりますが、治療が終了するとほとんどの患者さんで生理が再開します。ただし、生理が再開するまでの期間は、患者さんによってさまざまです。一方、治療中に閉経を迎えた患者さんでは、生理は再開しません。



Q どのような副作用がありますか？

A 主な副作用には、エストロゲンが低下することによる更年期様症状、注射部位の腫れ・痛みなどがあります。

初回投与後の一時的な副作用

初回投与後、一時的にですが、低下させるはずのエストロゲンが増加します。そのため、骨や関節の痛み、むくみ、頭痛、胸の張り、透明なおりものの増加、ヒステリックな症状、性欲の増加などがあらわれることがあります。

主な副作用

- エストロゲンの低下による更年期様症状
ほてり、のぼせ、発汗、頭痛、肩こり、イライラなど
- 注射部位の腫れ・痛み(次ページをご確認ください)
- エストロゲンの低下による骨量の減少(骨折しやすくなる)
- 腰痛、背部痛、関節痛

注意すべきまれな副作用

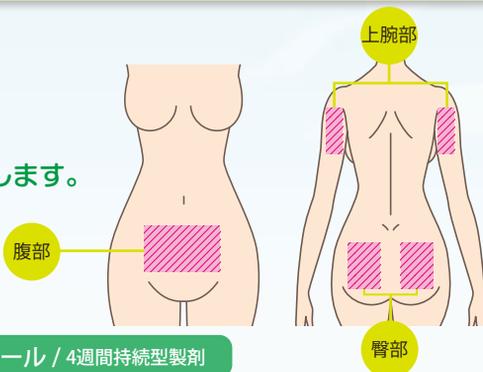
まれにはありますが、以下のような副作用が生じることが報告されています。

間質性肺炎、アナフィラキシー、うつ状態、肝機能障害や黄だん、糖尿病の発症または増悪、下垂体腺腫患者さんにおける下垂体卒中、心筋梗塞、脳梗塞、静脈血栓症、肺塞栓症等の血栓塞栓症

リュープロレリンについて

Q 「リュープロレリン」の投与方法とスケジュールを教えてください

A リュープロレリンは、4週間に1回の頻度で腹部、上腕部^{でんぶ}、臀部のいずれかの皮下に注射します。

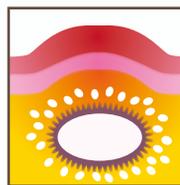


リュープロレリンの治療スケジュール / 4週間持続型製剤



注射後に注意していただきたいこと

注射後の注射部位に「かたまり」を感じることがあります。この「かたまり」は、体内にとどまっている薬の成分(=マイクロカプセル)の周囲を組織が取り囲んだものです。この「かたまり」が赤く腫れ、痛みを伴う場合があります。また、注射部位の皮膚を傷つけてしまうと、まれに、膿がたまる場合や、傷が深くなってえぐれたような状態になる(潰瘍化)場合があります。注射部位にこのような異常が認められたら、すみやかに医師や看護師、薬剤師にお伝えください。



発赤

治療記録・治療予定日

注射した日	注射部位			次回の注射日
	上腕部	腹部	臀部	
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日



気軽に声をかけてください

副作用があらわれる時期や種類、どのような程度かは、患者さんによって異なります。必ずしも副作用が出るとは限りませんが、もし副作用があらわれた場合は、すぐに医師や看護師、薬剤師に相談しましょう。

かかりつけの病院情報

病院名

担当医師名

TEL

緊急連絡先

名前

TEL

携帯電話

